

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
707	月ヶ瀬こども園

707月ヶ瀬こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の状況を踏まえた教育保育目標を設定し、方針や取り組みを職員間で周知する。 職員の適正に応じた配置を行う。 職員間で業務内容を共通理解し、助け合える環境を整えるようにする。 保護者によるアンケートを実施し、教育・保育活動に検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に方針を示し、目標が達成できるように子ども理解や捉え方を共通理解した。 子どもの姿を出し合い、全体的な計画に沿った働きかけができていくか、会議で話し合い、教育保育に取り組んだ。 保護者に園評価のアンケートを実施し、概ね評価を得ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で漏れ落ちのないよう教育保育目標、方針の共通理解を図った。 ドキュメントやでいあシート、ホームページを保護者に向け作成することで教育保育の振り返りにつながった。 保護者アンケートでは教育保育活動において肯定的な評価をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標や方向性を明確に示し、職員間で共通理解をした上で、日々の保育を振り返り、子ども理解や関わりを話し、意識していくことが大切である。 園の教育保育目標や保育内容等を保護者に伝える機会を多くし、理解を求めている。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 幼保連携型認定こども園の教育保育要領やパンピーノの内容に沿った発達を計画や実践に反映させる。 職員による指導計画の振り返りを行う。 園内研修を計画的に行うとともに、園外での研修に参加しやすい体制づくりを行い、職員の資質向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を通して語り合う場をつくり共通理解をし、指導計画の見直し、次の計画へとつなげた。 園内公開保育では研究主題や子どもの資質能力についてや、子どもの理解や関わり方について職員間で話し合えるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要な時に会議を持ち、乳児・幼児・園全体の連携を図った。 職員間で子どもの姿を丁寧に捉え、子どもの姿を理解し、環境や援助の工夫につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに基づいた各年齢の指導計画を立案し、進めていく。 園内外の研修を通して子どもが自ら活動できる環境や援助等を継続して探っていく。 職員間で話をし合う機会を多く持ち、子どもを見取る力をつけていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを中心に園行事を精選し、子どもが参加して魅力ある行事を創る。 子どもが主体的に取り組んでいけるよう過程を重視する。 保護者や地域と連携し、特色のある行事を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達を中心に考え、それぞれにねらいや目標を持って行事を計画、実施した。 日々の保育の積み重ねを大切に子ども達が主体的に活動し、各年齢の育ちや日常の取り組みを伝える場となるような行事ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事について職員間で検討し、子どもを中心とした行事を行った。 子どもは主体的に参加し、様々な豊かな経験ができた。 行事について、保護者から良い評価を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの行事について振り返り、評価反省をして、課題を解決しながら立案していく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 各年齢に応じた計画を立案し、保育者自身が人権感覚を磨き、一人一人の子どもを大切に思い丁寧に関わり、同じ意識で教育保育を行えるようにする。 子どもの実態について職員間で共通認識をし、一人一人が大切な存在であることを伝え、指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中で一人一人を大切な存在としてまた、いいところを持つ存在であり、互いに認め合っているように指導していった。 人権チェックシートを用いて保育を見直す機会を設けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの人権に関する項目で概ねの評価が得られたが、すべての家庭ではなかった。 職員間、家庭と連携を図りながら取り組みを進めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者自身の日常の会話や言動、子どもへの言葉かけなど常に人権を意識する。 一人一人の人権が守られ、子ども達にも取り組みを継続していく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で共通理解をする。 子ども一人一人の実態を把握し、個別の状況に応じた関わりをする。 園児に関しての相談事など、家庭と連携を常に密にする。外部相談機関と連携を密にし、情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの置かれている状況を把握し、全職員で共通理解をする。 家庭との連携を密にし、一人一人に応じた指導を進めてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を大切にしながら、一人一人の子どもをより理解し、関わろうと努めたか。 保護者より概ね良いの評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も保護者とコミュニケーションをとり、家庭と連携して取り組んでいく。
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> 対処方針や指導計画が明確である 職員間で意識を共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 共通認識を持っている。 職員間での意識を継続していく。 		
			<ul style="list-style-type: none"> 日頃より実態把握・早期発見に努めている 子どもの実態把握をし、園内で情報共有をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で情報共有が行われた。 情報共有の場を整える。 		
			<ul style="list-style-type: none"> 各学級の状況を園組織として共有できている 園内で情報共有をし、子どもと関わった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人丁寧に関わった。 子ども理解に努める。 		
			<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域と連携できている 保護者や関係機関と連携をとった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担任、園長副園長で連携をとった。 丁寧に関わり、連携を図る。 		
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 園内で会議を持ち、共通理解し協力しながら関わる。 一人一人を丁寧に観察して子ども理解をすると共に、課題を明らかにし具体的な指導を行う。 家庭と連携し、一人一人に応じた支援計画を作成する。 作成した支援計画をもとに、家庭や関係機関と連携を密に図りながら支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で支援が必要な子どもの情報交換、共通理解をし、園全体で共通の関わりができるようにした。 特別支援コーディネーターと連携を図りながら、個々の支援計画に基づき、一人一人に応じた関わりにつなげた。 個別に子どもの状況を把握し、家庭と話し合いを持ち、保護者の気持ちに寄り添いながら、関係機関との連携を図り、取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と話し合い、理解を得て進めた。 気になる子どもに関しては特別支援コーディネーターにも相談し、子どもの姿の理解や関わりを探った。 保護者と連携を密にすることで、子どもにより影響が現れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を重ね、園職員の中で共通理解をする体制を整え、適切な支援を行う。 今後も支援を必要とする子ども一人一人に応じた援助や環境構成について学び、安心できる居場所づくりを目指していく。 保護者との信頼関係を深め、関係機関との連携を今後も継続していく。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
707	月ヶ瀬こども園

707月ヶ瀬こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の取り組み、方針を周知する。 迅速な意思決定で園運営を行う。 職員の能力が十分に発揮できるよう適材適所に配置する。 園務分掌では、全職員が業務を理解できるように伝え、助け合える環境を整えるようにする。 必要に応じて会議を設定し、職員間で周知すると共に共通理解をする場とする。 風通しの良い人間関係をつくる。 保護者や学校評議員への評価を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育ビジョンを基に方向性や目標を明示し、職員と共有を図った。 互いに自分の思いや考えが言える職場づくりをした。 職員間で話し合う機会を大事にした。全職員での会議は難しい環境にあるが、できるだけ出られる時間帯を選び会議を行ったり、互いに伝え合ったりできる環境をつくった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員が協力し合って各自の担当の役割を果たすことができているか見直しながら進めてきたか。職員一人一人が大切にされる関係性が構築されている。 園内で情報共有や共通理解をするために会議内容は周知する。また、職員一人一人のよさが活かされる環境づくりを行う。 必要に応じて職員間で話し合い、共通理解できるように努めている。 保護者や学校評議員からよい評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の一員として園全体の取り組みを担うという意識を各自がもって遂行していく。 園内で情報共有や共通理解をするために会議内容は周知する。また、職員一人一人のよさが活かされる環境づくりを行う。 保護者からの園評価を真摯に受け止め改善可能なところは改善を実施する。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に園内研修を行い、参加しやすいように配慮する。研修は職員の資質向上に努める。 園の研究主題を意識し、実践・研究に取り組む。 園外研修に参加できるよう体制をつくる。また、他園の公開保育研修に参加し、実践に活かせるようにする。 研修内容を職員間で周知、報告する場を設け共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資質向上や専門性を高めるために園内公開保育研修を計画的に行った。子どもの姿を基に環境構成や保育者の援助、3つの資質能力など確認し合い、保育の質の向上へ繋がられた。 園外での研修会や公開保育研修への積極的な参加を促し学びを保育実践に活かせるようにした。 適切な保育が提供できるよう、その場に応じて職員に指導や助言、互いに考え合うなどして進めた。 事例を出し合い、子どもの姿を見取り実践に活かしていった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 組織的、計画的に園内研修を実施し、保育の資質向上に繋がったか。 職員間で子ども理解を深め、環境構成等について工夫や改善を行った。 研修会を学ぶ場と捉え、誰かが参加できるよう体制を組んだ。 リモート研修にはできるだけ多くの職員が参加できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き職員の資質向上をめざし、研修体制を整え、学びの場をつくっていく。 研修での学びを実践に活かしていくとともに、研修後の職員間への共有を増やしていく必要がある。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
③ 園外の研修への積極的参加							
④ 園外研修内容の共有							
⑤ 研修成果の普及							
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに計画を立て、職員に周知。 災害時や緊急時に対応する訓練を実施。職員の役割と動き方について確認する。 大規模災害、非常時における家庭との連携確認をする。 関係機関（消防署・警察など）と連携をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルの確認と月1回の訓練を計画的に行った。 災害時における職員の行動の確認と共に、保護者への園児引き渡し訓練を実施した。 年間を通して園内の安全点検を実施し、子どもが安全に過ごせるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練後は職員間で意見を交換して反省点などを共有し、今後に繋がれた。 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりと計画を立て、職員間で共通理解をして園児の安全を守るための働きかけがいつでもできるようにする。危機管理意識を全職員で高め、非常時の行動を身につける。 園児引き渡し訓練を実施し、保護者との連携や保護者の意識向上を図る。 	
	② 防災計画の立案						
	③ 危機管理体制の整備						
	④ 安全指導の工夫改善						
	⑤ 家庭との連携						
	⑥ 関係機関との連携						
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 感染症マニュアルについて周知する。 感染症について正確な情報を得て、安心と安全を守る。また、園児の様子に気を配り心のケアにも努める。 健康的な生活に必要な習慣や態度が身につくよう家庭と連携しながら指導に努める。 関係機関、園医、看護師、薬剤師と連携をとる。 衛生的に昼食を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康状態を把握し変化があれば適切な処置を行った。 子どもが自分の健康について関心が持てるような保育内容を取り入れ、衛生的に過ごせるように指導した。 衛生管理について職員間で確認を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルについて職員に周知できているか確認した。（嘔吐物の処理等） 手洗い、うがいなど基本的な感染症予防を子ども自ら取り組めるよう実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや職員の健康管理、安全管理を心がける。 子どもが健康な生活についての意識が持てるよう教材や指導方法を工夫する。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備						
	③ 健康観察、健康管理能力の育成						
	④ 関係機関との連携						
	⑤ 昼食（給食等）の衛生管理						
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> たよりやドキュメンテーション、ホームページ、でいあシート等で園の取り組みを発信。 園小中の連携を密にする。 校区内で話し合いの場を持ったり、交流の場を設定したりする。 学校評議員会を開き、学校評議員に意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だより、クラスだより、でいあシート、ホームページ等を通して園の取り組みや子どもの様子を発信した。 子どもの様子を参観し合う、交流を持つなど小学校と連携をとった。 地域との交流を大切にしながら、園児の育ちに繋がる取り組みを進めた。 園の行事に可能な限り参加してもらい、園のことを理解してもらった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> でいあシートを定期的に掲示し、保護者に発信した。読み解いたでいあシートを小学校へ持参し、情報を発信した。 小学校と子ども職員との交流は持てたが、内容は適切だったか。 地域へたよりにて取り組みを発信。 地域と子ども達の関わりについては計画どおりに実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との連携において交流の機会を増やすと共に、職員間での交流が必要である。 今後も家庭、学校、地域、関係機関と連携して取り組みを進めていけるよう努力していく。 	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ P T A・保護者会の活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの環境の見直しをする。 遊具点検を毎月行う。 危険箇所、補修箇所の点検を行い、把握と改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内外施設、遊具等の安全点検を行うと共に、清掃や草刈りなどこまめに環境整備を行い、子ども達が安心して遊べる環境を整えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園児にとって安全で過ごしやすい環境であるか、常に新鮮な感覚で点検し、必要に応じて速やかに対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検を徹底して行い、保育環境の整備、施設設備の管理に努める。 	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 公文書綴りを作成し、保管をする。 個人情報の管理について職員間で共通理解し、個人情報の管理、保護を徹底する。 個人情報を扱う場所について確認する。 電子媒体の適正な管理、運用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の漏洩、記録媒体の管理等には最新の注意を払うことを注意喚起を行い、適切に管理した。また、決められたマニュアルに基づいて情報管理を行った。 情報セキュリティの研修に参加したり、動画による自己研修を行ったりした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報や電子媒体の管理はマニュアルを遵守し、情報の取り扱いには細心の注意を払っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が常に危機感を持ち、個人情報を取り扱っていくように、今後も情報管理を努めていく。 	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						